

行くぞ荒波、一直線!

見山庄

世代の塊 釣り師

気心の知れた釣友たちとの仕立船。計画だけはあれもこれもと欲張って出港する。冗談をかわしつつ、沖で糸を垂らすだけで満足。釣れなくてもよし。釣れたらなおよしの至福の時間。

釣りライター

第33回 金沢漁港からマダイとイシモチに挑戦

仲間の「楽釣会」で「木川丸」を仕立てた

この新春から本誌に新しく仕立専門船が参入した。金沢漁港の「木川丸」がそれで、鮮やかな黄色の船体に負けず劣らず船長が明朗闊達なら、

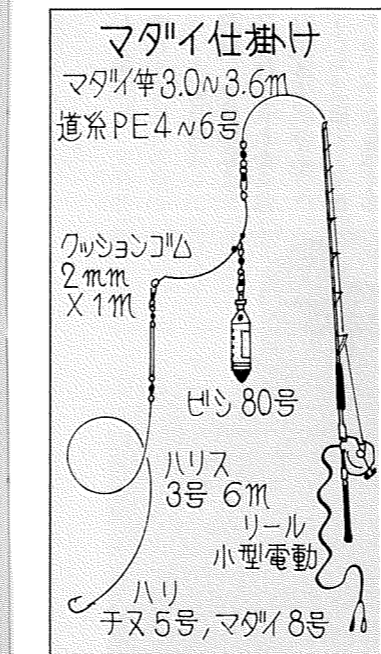


オジサンたちの集まりだ。変である最大の理由は、わたしなんぞを

新旧のおカミさんたちも晴れた冬空のように明るい。

1月9日、同宿のリビータ「楽釣会」の初釣りに便乗取材させてもらった。「楽釣会」と称する釣りクラブは全国にかなりの数があるようだが、東京広尾を拠点とする「楽釣会」

の命名の由来が面白い。同所にある割烹「楽」に出没する面々が美味と美酒に酔乱しては、天下国家を論じつつも、同店のショーケースに自分の釣魚を並べたい一心で立ち上げた会。

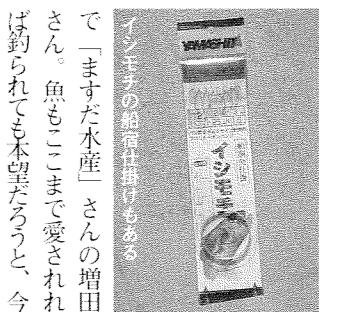


この日も参加した会長らしき人は関西方面を自稱する菊吉さんで、当連載の24回目に命を削りながら釣りをすすめるスッゴイ人と紹介した。事務局長らしきは、人呼ん

5人目は五代さんで、愛車にチャイルドシートと車椅子を常設するよき爺、よき孝行息子である。「木川丸」のマダイ釣りではオデコなしの頼もしい人。

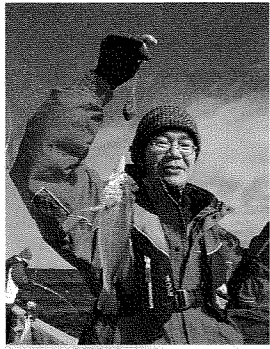


マダイ釣りの道具は一式用意されている



インマダの船宿仕掛けもある

行くぞ荒波、一直線!



いつもの関西方面船長から兄弟子と呼ばれる氏家さんも例会の常連のだが、この日は心筋梗塞で緊急手術を受けベッドの上。たぶん、本誌のページを繰っては地団駄するだろうが、幸いにも快方に向かっている。

平日はこうした5人からの仕立を受け付けてくれる「木川丸」。この日は片舷に3人ずつで、てんでに好きな釣り座へと入った。



まずは初釣りだけに久里浜沖でのマダイ釣り。ついで旬と言いたいイシモチ釣り。帰りがけにシロギスも狙ってみようとの欲張り釣行だ。

昔から「二兎追うものは」なんて申すのだが、こんなわがままも容易に叶えてくれるのは、同宿の行きついた配慮があればこそだ。



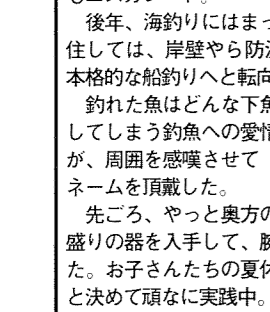
マダイ釣りの場合は写真のごとくに、コマセ一式、ザル、テンビン、プラビシ、クッシ

マダイ、イシモチ、キスと仕立ならではの魚種多彩



さて、この日は7時半に出船し、まずは久里浜沖の70mダチをめざした。

40cm超級のマアジも顔を出し始めて船中ガンと盛り上がったが、潮時もあったイシモチへの転戦を決める。移動の合図の直前、五代さんが小振りながらもマダイを釣って、同船でのオデコなしのジンクスを守る。



イシモチは帰路の途中、ちよど馬堀海岸の沖60数mダチが釣り場。イシモチ専門の

ベトベトのノルウェイ産サバより格上の美味となった。サバに行く手を阻まれるなかでも、きつちりとマダイを釣ったのは増田さん。プラス1mのタナで07kg級をヒットさせた。

「新健丸」がすでにいて、キラキラと魚鱗を光らせて良型を次々と取り込んでいた。

下は越冬中のシロギス。金沢八景の真沖30mダチで、イシモチとの両狙いだ。